

十三年十一月十日

東京府下種田誠一外三名ニ馬車軌路設置營業ヲ許ス

内務省伺

東京府京橋區新橋除ヨリ日本橋區ヲ經テ下谷區上野
廣小路并淺草廣小路ノ間ニ馬車軌路設置營業致度
旨京橋區三十間堀志丁目武番地種田誠一外三名ヨ
リ出願ノ趣ヲ以談免許ニ係ル命令書等取調別紙ノ
通同府ヨリ申立候ニ付勘考候處抑馬車軌路ノ儀ハ
歐洲諸邦ニ於テ其設有之乃東京府下市街ノ如ク
通行繁盛物貨輻輳ノ地ニシテ此設ケ有ルニ於テ其
便益固ヨリ不俟言儀ニテ百般進歩ノ今日尤モ勸奨
ス可キ舉行ニ有之知之即今府下馬車營業人等極テ
多ク致居候處當ニ軌路ノ設無之ノミナラス最初

營業差許候節其營業人ニ於テ遵守又ハ負擔ス可キ
 精密ノ法則モ不相立ヨリ車路ニ定軌無ク縱橫路上
 テ蹂躪シ故ラニ道路ノ破壊スル有ルモ營業人ニ於
 テハ素リ其責ニ任セズ為是道路ニ妨碍ヲ興フル而
 己ナラス其甚シキニ至テハ行人ヲ毀傷シ又ハ行客ニ
 乗車ヲ強ル等其間謂フ可ラサル弊害モ不少自然街
 路取締上於テモ關係不少儀ニ候處今轍軌ヲ設ケ通
 車ノ線ヲ定メ且營業上之カ法則ヲ定メ營業者ヲシ
 テ嚴密遵守為致候上ハ右等ノ弊害ヲ洗除スルニ足
 ル耳ナラス馬車發着時間等一違致シ居實際行人ノ
 便益不火ヨリ自然衆庶ノ信憑ヲ招キ隨テ他ノ正規
 ナキ營業者ハ自ラ跡ヲ談路線内ニ絶ワニ至リ至極
 便益ノ儀ニ可有之且市街道路ノ儀ハ從來破潰ノ類

ナル隨テ修スレハ隨テ破レ類ニ修繕ノ工モ其破潰
 ヲ補フニ足ラサルノ今日談營業者ヲシテ轍軌外幾
 部系ノ修補ヲモ負擔セシメ候上ハ自然官ノ手數ヲ
 省キ一舉兩得ノ儀ト存候一体府下ハ勿論他府縣ニ
 在テモ少シク繁盛ノ地ニ在テハ馬車人力車等營業
 ノ者モ不少候處前陳ノ通徒々利弊相半ニ就中人力
 車ノ如キハ尤モ穩カナラサル營業ニ屬シ漸次世事
 ノ進歩ニ從ヒ右等營業ノ儀ハ自然廢滅ニ歸セサル
 可ラサル者ニ可有之左候ハ本件馬車轍路營業ノ
 如キハ實ニ世運ノ好機ニ投シ候儀ニテ其今日ニ在
 テ僅ニ府内街路ノ一二ニ創設スル轍路モ他日各地
 方ニ擴及スルノ端緒共相成可申且轍路設置ノ仕様
 ヲリ營業中遵守ス可キ法則其他諸般取締上ニ於テ

之敷ヲ不都合無之旁以馬車轍路設置ノ儀ハ目下通
運上ニ利便ヲ與ルノミナラス異日御國益ヲ増進ス
ルノ楷様トモ相成可申ト存候間願意及許可積尤兩
線路京橋除ヨリ馬喰町ニ達スル迄ハ道路狹隘ニモ
有之旁先ツ差止ノ置尚實際ノ景況ニ因リ便宜差許
候積指令按添此段相同候也 十三年六月十五日
迺テ別紙認許命令書ノ内第一條第十五條第十六
條第十七條並取締方命令書ノ内第三條等掛紙ノ
通改正削除ノ上可及指令ト存候也
伺ノ趣聞屆候條建築並ニ營業ヲ認許スル命令書ハ
附案ノ通改正可致事 十三年十一月十日

但馬車錢路營業取締方命令書ハ下付スルニ不及
一般馬車營業取締規則ノ内ハ別冊甲類ノ數條

加ハ主管廳ヨリ布達セシムヘキ事

指令按

書面ノ趣聞屆候條不取締無之様可致事

但兩線路京橋除ヨリ馬喰町ニ達スル迄ハ先ツ
差止ノ候且認許命令書ノ内第一條第十五條第
十六條第十七條並取締方命令書ノ内第三條等
掛紙ノ通可心得事

東京府伺 内務省宛

府下京橋區新橋除ヨリ日本橋區ヲ經テ下谷區上野
廣小路並淺草區淺草廣小路ノ間ハ馬車轍路設置營
業致度趣京橋區三拾間堀志町目或番地種田誠一外
三名ヨリ別紙ノ通出願候ニ付仕様方法等萬ト遂調
査候處其仕様工費等ニ差支無之且轍路設置ノ路線

ニ當ル處ノ道路ニ於テモ右轍軌ヲ布設スルカ為メ
ニ支障ヲ生ス可キ場所モ無之殊ニ他ノ通行運搬
車馬ノ妨害ニモ不相成大ニ利便ヲ興シ候者ニ有之
尤前年林和一外三名ヨリ馬車轍路取設方願出有之
其節伺出候處却聞届不相成候ハ共今日ニ至リ候テ
ハ自ラ時勢モ異リ既ニ都下ノ外部品川ヨリ板橋ハ
向ケ錢道氣車被取設候ニ付テハ都下ノ内部ニ於テ
通行運搬ノ便利ヲ開カサレハ人民ノ便否都府ノ勢
衰ニ関涉不少ニ付抑本願ノ如キハ今日施行スヘキ
時機ニ際シタル時ト存候尤来ル十四年内國博覽會
前ニ竣工營業致度趣方出願人ヨリ申出資ニ至急ヲ
要スル事情ニ有之候ニ付乃チ別紙之通轍路命令書
取調相伺候條早々御詮議相成候様致度本願書類モ

繪圖面命令書共相添此段相伺候也 十三年四月十八日

馬車錢路築造並營業ノ認許スルニ付命令書

第三條

今般許可スル處ノ錢路ハ新橋際ヨリ日本橋ヲ經テ
上野廣小路ニ至リ夫ヨリ下谷廣德寺前通り淺草廣小
路ニ至リ夫ヨリ同町藏前通傳馬町本町同町武丁目角ニ至テ是橋通リ錢路連絡スルモ

第四條

錢路營業ハ滿三拾箇年ヲ以テ期限トス

第五條

馬車錢路築造ニ付之ニ屬スル基材其他建築費額ノ
十分ノ二身元保証金ト為シ實地起業ノ前日當廳ニ
領置シ工業竣工検査済ノ後之ヲ還附スヘシ
但工業半途ニ廢シ滿一ヶ月ヲ過キ再興セサル時

大正
陸軍
大正
陸軍

ハ身元保証金ヲ以テ原形修路ノ費用ニ充テ剩餘
アルモノハ之ヲ還附シ不足アルモノハ之ヲ償ハ
シム

第四條

鉄軌ハ他ノ車馬通行ニ妨碍莫クラン為ノ一般道路
ノ表面ヨリ昂低スヘカラス
但鐵軌ノ横幅ハ内法リルヲ四尺五寸ヲ以テ限ト
スヘシ

第五條

橋梁上及ニ道幅五間以内ノ場所ハ總テ單線タルヘ
シ

第六條

凡ソ轍路線ニ係ル橋梁ノ幅員狹隘ナルモノハ其幅

員ヲ廣ムル歟或ハ更ニ架渉スル等俱ニ營業人ノ負
擔タルヘシ

鐵路線ニ係ル橋梁幅員ノ狹隘ナルヲ廣メ又ハ脆弱
ニシテ架渉ヲ要スル等ノ費用ハ營業人ノ負擔タル
ベシ尤其狹隘ナルト脆弱ナルトハ府廳ノ鑒定ニ依
ルヘシ

第七條

但本條起業毎ニ管廳ノ許可ヲ受クヘシ

鐵路築造ノ間又ハ之ヲ修理スルニ方リ當廳及ニ警
視署ノ認許ヲ得ルニ非サレハ道路ノ往來ヲ止ムヘ
カラス

第八條

鐵軌内ニ勿論軌外横幅貳尺通りノ修路及ニ掃除等

ハ其工業并費用共總テ營業人ノ負擔スルヘシ

但將來橋梁架替及修繕ノ費用モ本文ノ割合ニ因リ
支辨スベシ

第九條

當廳ニ於テ水道溝渠瓦斯管并橋梁等ノ架替又ハ修
繕ヲ要スル時ハ工業中其支障スル箇所ニ限り基材
鐵軌等ヲ撤除シ工業竣工ノ後ニ至リ原狀ニ準シテ
鐵軌其他ノ^復施設事業并工費共總テ營業人ノ負擔タ
ルヘシ

但本條ノ場合ニ方リ當廳ハ該營業休止中ノ損失
ハ償ハサルヘシ

第十條

營業人ハ當廳ノ令ニ由リ他ノ鐵路營業人ノ該鐵路

ニ交叉スルヲ要スル時ハ其所要ノ部ニ限り相當ノ
修理金ヲ收取スルノ約定ヲ為シ之ニ交叉通行セシ
ムヘシ

但此營業人ヨリ他人ノ鐵路ヲ要スル時モ亦本條
ニ準スヘシ

第十一條

鐵路期限中滿三ヶ月間使用セサル時ハ當廳ニ於テ
營業人ヲシテ該鐵路ヲ他ノ能ク使用スルニ堪ユル
者ニ貸サシムル歟或ハ特ニ其業ヲ休止セシムル事
アルヘシ若シ滿一々年間ヲ過キ其營業再舉スル能
ハサル時ハ基材鐵軌等總テ當廳ニ於テ糶賣シ原形
修路ノ費用ニ充テ其過不足ヲ生スルモノハ第三條
ノ但書ニ準シ處分スヘシ

第拾貳條

基材鐵軌其他道路ニ布設スル物品ヲ他人ニ抵當ト為シテ金貨其他共借用スルヲ許サス

第拾三條

外國人ヲ以テ株主ト為スコトヲ許サス

外國人ヲ以テ株主ト為スヘクラス

第拾四條

鐵路營業期限中當廳ハ檢查員ヲ以テ常ニ該鐵路及ニ其他ヲ監督セシメ營業人ノ命令書ニ違ヒ或ハ修路等ヲ怠リ為ニ往來ノ妨碍ヲ生スルヲ認ムル時ハ之ヲ督責シ若シ奉セサル時ハ其要旨ヲ遂クルニ至ル迄其路線ニ限り營業ヲ休止セシムヘシ

第拾五條

鐵路馬車ニ付一般ノ車税ヲ納ムルノ外官廳ヨリ命令スルハ相當ノ税ヲ納ムヘシ

第拾四條

營業人ハ該營業ノ初年度ニ限リ左ノ每款ヲ具シ當廳ニ報告スヘシ

第一款株金所有者ノ負數并株高

第二款鐵軌ノ費

第三款鐵路縱橫ノ基材及ニ其据付ケ費

第四款道路ヲ布覆スルノ費

第五款諸築造中役員監視ノ費

第六款輸路築造ニ係ル諸雜費

第七款車ノ負數及ニ其價額

第八款馬ノ負數及ニ其價額

第九款地所并建物買上費

第十款車務局及工物料倉廩等、建築總費

第十壹款單線及二復路線、長延

第十貳款鐵軌、總長延

第十參款鐵軌、長サ及二每尺ノ重サ

第十四款路中最大ノ昇リ及二最小ノ弯曲規線等

第十條

營業人ハ例年々末左ノ每款ヲ具シ當廳ニ報告スハ

第一款林金所有者、負數

第二款其年間車、通過セシ總里數

第三款乗客、負數

第四款營業人、役使スル差配人車長馭者、負數

第五款鐵路、修理及二改新ノ費

第六款車并馬具等、修理及二改新ノ費

第七款事務局物料倉廩等、修理及二改新ノ費

第八款差配人車長馭者等、給料

第九款枯草葉飼馬料等、費

第十款馬、亡失及二其買上費

第十壹款乗客運送、賃金

第十貳款物貨運送、賃金

第十參款肥糞賣却、價額

第十四款防災、諸費

第十五款其年間本金ニ掛フヘキ利息ノ多寡

第十六款其年間出金ノ統計

第十七款其年間金額收納ノ統計

第拾八款出納精算純益金ノ統計

第拾九款毎款ノ外総テ當廳ニ於テ該鐵路其他ノ景

況ヲ審察スルニ所要ノ報告

第拾六條

張 鐵路營業ハ滿五拾ケ年ヲ以テ期限トスヘシ而シテ該
期 期限中ト雖モ政府ニ於テ止ムヲ得サル事故アル時
ハ 轍軌其他ヲ悉皆或ハ其幾部ヲ相當代價ヲ以テ
買上ルコトアルヘシ

張 非常又ハ政府上己ムヲ得サル事故アルニ方リテハ
政 府ハ相當ノ賃金ヲ營業者ニ給シ該鐵路ヲ全ク使
用スルヲ有ル可シ

營業期限中タリトモ非常又ハ政府ニ於テ己ムヲ得
サル事故アルハ政府ハ相當ノ賃金ヲ營業者ニ給

與ニ該鐵路及ニ馬車共悉皆又ハ其幾部ヲ借入レ或
ハ相當代價ヲ以テ之ヲ買上ル事アルヘシ

第拾七條

張 轍路營業滿期ニ當ル時ハ基材轍軌共當廳ニ於テ羅
賣シ原形修路ノ費用ニ充テ尚過不足ヲ生スルモノ
等ハ總テ第九條並第一條ノ但書ニ準シテ處分スヘ
シ

張 營業年限中四十年ヲ經タル後ハ當廳ハ該轍路車馬
其他一切ノ付屬品共原價ノ歩割引ヲ以テ營業人ヨ
リ收メシムルヲ有ルヘシ

行 車行啓其外特殊ノ場合ニ於テ其通行路ニ當ル通
車ヲ一時停止セシムルヲアルヘシ但停車ニ付テハ
別ニ補償ヲ給セサルベシ

第拾八條

當廳ノ都合ニ因テ路線ヲ變更スルコトアル時ハ營業者ハ悉皆自費ヲ以テ該路ヲ新路線内ニ移ス可シ

第拾九條

營業年限満期ニ至ル時ハ錢路ハ悉皆取拂原形ニ復セシムヘシト雖モ望ニ依テハ更ニ營業ヲ許可スルコトアルヘシ

但當廳ノ都合ニ依テハ官ニ買上ケヌハ他ニ營業セシムルコトアルベシ

第貳拾條

駐馬場ハ管廳ノ許可ヲ受ケ豫定シタル場所ニ限ルヘシ

第貳拾壹條

此命令書ニ掲ケル條件ノ外法律規則ヲ以テ定メタル諸件及ニ將來定ムル所ノ諸件ハ總テ之ニ遵フヘシ

第貳拾貳條

此命令書中ニ掲ケル條件ニ違背シタル時ハ何ノ日何ノ時ヲ問ハス第十四條ノ例ニ依リ處分スヘシ

馬車轍路營業上取締方ニ付命令書

第壹條

乗客ノ賃金ヲ確定シ豫メ當廳ニ届ケ出ツヘシ但諸荷物運送ヲ為ス時モ本條ニ準スヘシ

第貳條

火藥其他ノ暴發スヘキ物品ハ些少タリモ運搬スベカラス

削除 第三條

非常其他公用ニ係ル事故アルニ方リ政府ハ相當ノ金額ヲ下付シテ轍路ヲ專用スル事アルヘシ

第三條

凡ソ馬車ノ運轉ハ一時間ハ拾町餘ノ速度ヲ過クヘカラス

第四條

日没ヨリ車ニ白燈ヲ點スヘシ又夜中危險其他ノ事故ニ由リ街上ニ駐車スル時ハ他車ノ衝突ヲ防ク為メ該車ノ後部ニ赤色ノ燈ヲ點スヘシ

第五條

強テ往來人ニ乗車ヲ勸ムルヲ許サス

第六條

營業人ハ慥ナル差配人并車長馭者ヲ使用スヘシ尤モ其者ノ不注意ニ由リ生スル過害ニ於テハ常ニ其責ヲ免ルヘカラス

第七條

馬車ハ常ニ往來ノ安寧ヲ慮リ道路ノ交叉スル處及ヒ其隅角ニ靜息スヘカラス

第八條

醉人并發狂人ニ乗車ヲ許スヘカラス

第九條

馬車ハ忽チ靜止セシムヘキ為メ常ニ過當ノ駐器ヲ具備スヘシ

第十條

行車中十字街頭ハ勿論其他往來繁多ノ場所ニ於テ

ハ常ニ小笛ヲ用ヒ通行人并他ノ車馬ノ馭者輓夫等
ニ注意セシメ衝突ノ禍害ヲ防クヘシ

第拾壹條

行車中路上ノ通行人殊ニ老人幼兒ノ為メニ支障アリト認ムル時ハ速ニ駐車シテ其危難ヲ避クヘシ

第拾貳條

轍軌ノ屈曲及ヒ橋上ヲ行車スルニ方リ時ニ馬足ヲ緩ラスヘシ

第拾參條

二車前後相次テ行進スル時ハ後車ノ馭者ハ終始前車ヨリ適宜ノ間隔ヲ為スヘシ

第拾肆條

乗客待受ノ為メ豫定シタル場所ノ不謂レナク半途

ニ駐車スヘカラス

第拾伍條

車中ニ於テ乗客ノ俄ニ發病シ其他不時ノ変事アル時ハ之ヲ巡傍ノ巡查ニ報シテ其介抱ヲ乞フヘシ

第拾陸條

車長及ヒ馭者ハ帽子又ハ衣服等ニ格紋ノ標章ヲ着ケ他ノ馭者輓夫ニ區別スヘシ

第拾柒條

車ノ外面見ヘ易キ處ニ該車ノ番號及ヒ其車何處ヨリ何處ニ至ルト字體讀ミ易ク記載シ置クヘシ

東京府下市街馬車錢道建築願

國ノ富強ハ物産ノ繁殖ニアリ物産ノ繁殖ハ運輸ノ便ヲ起スニアルハ蓋シ言ヲ俟タサルヤリ我邦雖孰

以降未タ十數年ナラスレテ百般ノ事業更革シ首ト
シテ官造船製錢ノ道ヲ開キ汽船ヲ造シ船舶ヲ改良
セラル故ニ今日ニ至リ人民造船ニ從事スルモノ各
地ニ興起シ船舶ノ更造日ニ進ミ月ニ革マル之レニ
加フルニ港灣ヲ開鑿シ燈臺ヲ設置スル等至ラサル
所ナシ海運ノ便殆ント將ナニ其緒ニ就カントス而
シテ陸運ノ便タルヤ瀧車錢路ノ設ケアリト雖モ未
タ僅ニ二京近傍ノ數里ニ過キス馬車道路ヲ開クト
雖モ一二地方數里ノ間ニ及ハス之ヲ海運ノ開クル
ニ比スレハ其十分ノ二三ニ居ラントス今ヤ富強ノ
大策ヲ講シ物産ノ繁殖ヲ計ルノ秋ニ方リ豈因循以
テ陸運ノ道ヲ擴張セザレ可ケンヤ顧フニ我同胞ノ
公衆蓋シ茲ニ意ナキニ非サル可シト雖モ未タ其良

法ノ率先スルモノナキニ因テ振ハサルノミ然ラハ
則之ヲ為ス奈何ン曰ク歐米諸洲ニ設クル所ノ馬車
錢路ヲ開クニアル而已抑東京府街タルヤ全國ノ首
府ニシ輦轂ノアル所各國公使ノ駐マル所四方ノ輻
湊スル所其地形タル四通五達宜シク早ク該錢路ヲ
設ク可キハ論ヲ俟タス依テ私共拙考不敏ヲ顧ミス
同胞ノ公衆ニ率先シ當府下市街一二區内ニ於テ該
錢路ヲ起シ漸次各區ニ敷及シ以テ一ハ人民ノ便利
ニ供シ一ハ陸運擴張ノ道ニ於テ欠ク可カラナルヲ
知ラシメント欲スル所ノ微志ナリ抑又馬車錢道ノ
業タル歐米既ニ行フ所ノ業ニシテ其便益タル據指
ニ暇ヲタス今其概ヲ陳セシ此錢路ヲ設クルヤ其費
用瀧車錢路ヲ起スノ費金三分ノ一ニシテ築造スヘ

ク而シテ其便益タル殆ント瀛車錢路ニ及ハントス
此線路ノ開クルヤ不毛ノ僻地モ開拓スベク未鑿ノ
鑛山モ開採スヘシ且該錢路タル平滑ニシテ馬車ノ
行進捷快ナル尋常馬車ニ比シテ幾倍ノ馬力ヲ減殺
スルヲ得而シテ其減殺セル馬力ハ以テ他ニ大用ス
ルヲ得ヘシ又尋常馬車ノ如キ縱橫馳突シ動モスレ
ハ衝傷ノ患アリ今該錢路タル馬車ニ軌道アリ行進
ニ定度アリ故ニ衝突ノ憂ナキナリ尋常馬車ノ馳走
スルヤ時間ニ定期ナシ今該錢路タル馬車ノ行進時
間ヲ一定シ乘客ヲシテ時間ヲ誤マラシメザルナリ
又更ニ該錢路ヲ要スルノ一事アリ今ヤ我同胞ノ人
衆ニ於テ牛馬ニ代リ人々車業ヲナス者殆ント幾千
百ナルヲ知ラス實ニ我良民ヲ塗炭ニ陥ラシムルノ

醜体視ルニ忍ビサルノミナラス又其健康ヲ害スル
ヤ最モ甚シ而シテ今此車業ヲ為ス者遊手無賴ノ徒
ノミニ非ス士農工商ノ徒或ハ不測ノ災害ヲ蒙リ已
ムヲ得ス此業ヲナスモノ亦多シ故ニ此業ヲナス者
ヲシテ漸次其道ヲ得セシメ或ハ工場ニ用ヒ或ハ地
方ノ開拓ニ役シ或ハ土木ニ或ハ山林ニ其外百般ノ
業ニ從事セシムルノ方法ヲ以テセハ歲月ヲ積ムニ
隨ヒ衣食住ニ安スルヲ得ニ然ルニ今此人車ノ業
タル一牛馬ノ勞ノミニシテ一日ノ饑渴ヲ免カレン
カ為メ此賤業ヲ甘マンシ一旦不時ノ疾病ニ罹リ終
ニ道路ニ斃ル者比々皆是レナリ今ニシテ之ヲ救
濟セズンハ田野日ニ荒レ百工日ニ廢レ而シテ同胞
ノ人衆牛馬ノ業ニ斃レテ後止マントス豈痛難ニ堪

可ケンヤ今之ヲ故フノ道他ナシ又馬車錢路ヲ設
クルニアルノミ若シ此錢路ノ各所ニ開クルニ至テ
ハ隨テ人車ノ業衰減ニ歸シ此賤業ヲナス者或ハ本
業ニ復スルヲ得ン此レ馬車錢路ヲ設ケ以テ人車ノ
賤業ヲ漸次消滅救済スルノ便益ナリ果シテ此ノ如
クナレハ則此馬車錢路ノ當府街ニ行ハルヤ隨テ
他ノ各府縣ニ亦之ニ倣效シ漸次盛大ニ赴ムキ邊陲
ノ人民物產ヲ都會ニ運搬シ之ヲ市場ニ販賣シ有無
相交換スルノ利ヲ得而シテ遂ニ海陸共ニ運輸ノ便
ヲ起スニ至ルヲ得ハ物產ヲ繁殖スルモ期スベク國
家ノ富強ヲモ期スヘキナリ前條請願スル所ノ當府
街錢路敷設ノ線路ハ甲線新橋瀧車鉄道停車場前ヨ
直線ニ神田須田町ニ到リ右折シ昌平橋ヲ起ハ御成
道通リ上野公園地前ニ至ル夫ヨリ山下通リ廣徳寺

前ヲ經テ淺草廣小路ニ達ス乙線甲線路本町三丁
目ヨリ右折シ大傳馬町通リ淺草橋ヲ經テ御藏前通
リ淺草橋廣小路ニ達ス丙線甲線路京橋條ヨリ右折
シ炭谷橋ヲ起テ伊勢町河岸通リ馬喰町通リ出江戶
橋ヲ經テ伊勢町河岸通リ馬喰町通リ出江戶橋ヲ經
章橋ニ到リ乙線ト合ス但甲線路淺草須賀町
淺草田原町ニ到リ乙線ト合ス但甲線路淺草須賀町
ト行運路ヲ設ケテ乙線ト合ス但甲線路淺草須賀町
迄ノ間單線御藏前ヨリ淺草廣小路單複線路合セテ
路ニ到ルノ間複線兩線路單線小此單複線路合セテ
長延凡十二英里ニシテ此築造費一里ニ付概算壹万
五千五百圓トシ此資本金三十拾万圓ト定ム而シテ其
築造方法等別紙仕様書取調并會社規則書共併セテ
上呈ス且右築造ニ係ル諸用品ノ如キ輸入品ヲ要セ
サルヲ以テ目的トシ唯線路上敷設花車輪ト客車一
輛トハ不得已之ヲ歐米兩國ノ内ヨリ購入シ以テ一
切之ニ接造シ向來各地ノ同業者ニ頒與セント欲ス
仰テ願々ハ私共茲區々ノ微衷ヲ諒察セラレ速カニ

地方官制
地方官制

乞可ヲ賜ハシ丁ヲ惘願ノ至ニ堪ヘス恐惶謹言

東京市街馬車錢道建築發起人

日本橋區新右衛門町拾六番地川村傳衛同居

明治十三年二月廿三日

川村傳藏印

芝區三田町壹丁目四拾六番地

谷元道貫印

日本橋區本找木町二丁目貳番地

久原庄三郎印

京橋區三拾間堀壹丁目貳番地

種田誠一印

東京府知事松田道之殿

前書出願ニ付與印候也

東京府日本橋區長館興敬

馬車錢道築造仕様書

新橋ヨリ淺草ニ達スルノ線路内(別冊ニ詳カナリ)幸
ニ高低ノ差異甚ク些少ナリト雖モ錢道築造ニ着手
スルニ方リ先ツ工事者ノ務ム可キハ道路ノ廣狹及
高低ノ實測ヲ為スニテリ實測圖既ニ成レハ錢路中
ノ最大高低弯曲最弧規線及ヒ往復行違線ノ位地等
更ニ精ク定ムヘシ錢線ノ形狀其製造ノ法及ヒ基礎
築造ノ方法其種類極ノテ多シ今築造セント欲スル
所ノ方法ハ別圖ニ詳記スル如ク米國內ニ實施スル
方法ニシテ先ツ平均幅七尺五寸深サ壹尺貳寸許ノ
道路ヲ開鑿シ大石或ハ木根ノ類ヲ取除キ下地ヲ平
均ナサシメタル後ロールヲ以テ固定スヘシ而シテ
雨水疏通ノ法ヲ設クル場所ニ至テハ道路ノ所々ヲ

横断レテ基材ノ下へ埋細渠ヲ設ケ両側或ハ一側ノ
溝ト相通セシムヘシ然レニ單線路ヲ設置スル位地
ノ如キハ通常道路ト同シク兩側ノ溝工雨水流ス
ルヲ以テ更ニ細渠ヲ設クルヲ要ス

雨水流通ノ法ヲ設ケテ後キニ為スヘキハ其基材ヲ
敷クニアリ始メ横基材長七尺幅平均六寸厚六寸以
上ノ角石ヲ大小一ツ置キニ据付ケ機械車輪ノ齒ノ
如キ形狀ヲ為シテ其凹所ニハ紐二三寸以上ノ雞卵
形ノ自然石ヲ強クハノ込ミ以テ檜縦材ノ動揺ヲ防
クヘシ

最後上層ヲ敷クノ前縦横基材間ノ空隙ニ瓦片碌(木
根及ヒ腐木ノ類ハ注意シテ取除クヘシ)砂土ヲ混交
シ之ヲ投入シ牢着固定シテ錢線面ヨリ以下三四寸

ニ至ラハ該線ノ内外共砂利ヲ敷キ詰メ各層毎ニ口
一ルニ頼テ堅ク填實スヘシ而シテ中心ハ兩錢線ヨリ
桁配ヲ附シテ雨水ノ壅滞ヲ防クヘシ

右ニ記載スルノ外馬車ヲ甲線ヨリ乙線ニ移シ或ハ
本線ヨリサリデングニ移ス等ノ法無カル可カラズ
是等ノ事ヲ為スニハスウイッテ用ヒル等ノ如キ
種々記載ヲ要スル條件アリト雖モ今其詳細ヲ記セ
ント欲スルモ此小冊ノ得テ能クスル所ニアラサレ
ハ此ニ奉ケス

別圖ニ顯ハス如ク道路ノ幅兩側溝渠ノ外縁ヨリ三
間半ノ場所ニ於テ單錢路ヲ設置ニ方リ他ノ行路ヲ
妨害セサルヲ認セン為メ左ニ該錢路布置ノ方法ヲ
奉ケン

兩錢線間ノ内則ヲ四尺五寸ト定ム故ニ該線ノ幅各
四寸ヲ加フル片ハ外則五尺三寸ナリ今道幅三間半
ヨリ五尺三寸ヲ減スル片ハ十五尺七寸ニシテ兩側
ハ八咫各七尺八寸五分ノ餘裕アル而已ナラス
該線ノ幅六寸以上ヲ用ニ厚四寸ノ栗木
ヲ中心ヨリ中心迄四尺毎ニ拵ヘ付其周圍ニ土砂ヲ
投入シテ殊ニ其線下ヲ錢挺ニ頼テ固着セシム然ル
後縱基杖長貳間幅四寸厚六寸ノ檜ニ本ヲ平行ニ内
則四尺五寸宛ニ栗木ノ上ニ安置シ長凡八寸五分ノ
堅木釘ヲ以テ檜ヨリ栗木ノ中間ヲ過クル迄貫通シ
且檜ノ外側ト栗木上面ノ所ニ目方凡貳磅ノニ一ヒ
形坐錢ヲ拵付長凡三寸五分ノスパイキ大鉄釘ノ類
ヲ以テ該坐錢ヲ縱橫兩杖ヘ打付テ以テゲ一デ
兩錢
線間

離ノ距ヲ精密ニ同距離ニ保ツシムヘシ

檜縱杖ノ接續スル所ニ於テハ幅廣ノ坐錢ヲ用ヒテ
兩端ヲ固結ス最モ該接ノ所ハ左右相對セサシム
ヘシ
檜拵付ノ後テハ直ニ幅四寸重サ毎三尺四拾五磅
ノ錢線ヲ切組ミ長凡六寸ノスパイキヲ貳尺毎ニ
該線ヨリ檜ノ中間ニ過クル迄挿入スヘシ而シテ其
接續スル所ニ於テハ幅四寸厚凡貳分五厘長壹尺ノ
錢板ヲ檜ヘ切込ミ他ノ部亦ト同様スパイキヲ打入
スヘシ最モ每錢線ノ接續スル所其間ニ少シク空隙
ヲ存シテ鉄線伸縮スルノ餘裕アラシムヘシ且該線
ノ接續スル所ハ檜ノ接續スル所ノ上ヲ避ケルハ勿
論可成兩接續ヲシテ相隔ラシムヘシ

正
則
典

壹噸ニ付六拾弗ノ割

一百四拾壹弗三拾九セント
レ形坐鉄大八百八拾個

但壹個ノ重サ貳磅惣計一噸五七一

壹噸ニ付九拾弗ノ割

一九拾八弗〇一セント
レ形坐鉄三千五百貳拾個

但壹個ノ重サ三磅惣計一噸〇八九

壹噸ニ付九拾弗ノ割

一八拾五弗四拾七セント
坐鉄附屬鉄釘七千〇四拾個

但壹個ノ重平均四ヲンス惣計〇七七噸

壹噸ニ付百拾弗ノ割

一九拾七弗拾三セント
錢線附屬大鉄釘五千貳百八拾個

但壹個ノ重平均六ヲンス

惣計〇八八三噸
壹噸ニ付百拾弗ノ割

レ形
註

一四拾三弗六拾セント
錢線接續鉄板五百貳拾八枚

但壹枚ノ量貳磅半惣計〇、五四五噸

壹噸ニ付八拾弗ノ割

一貳拾四弗五拾三セント
縱横線接續鉄及ニ轉線錢

但壹個ノ量不同惣計〇、二二三噸

壹噸ニ付百拾弗ノ割

一千百三拾六弗九拾貳セント
惣計七十五噸七八八錢物

英國ヨリ運送賃

但拾噸ニ付百五拾弗ノ割

右八口

合五千八百六拾九弗〇五セント

外ニ貳百九拾三弗四拾五セント二五

但水揚入費其他一切ノ諸雜費ニ

大正九年
九月
九月

原價貳拾分一、豫備

又合六千六百貳拾五拾セント〇貳五

外、貳千四百六拾五圓〇〇壹 我貨幣ト申、差

四割ト見積

總計金八千六百貳拾七圓五拾錢〇三厘五毛

縱橫基找并木釘美志里ノ費用

一八百三拾壹圓六拾錢

但尺ノニ、百八拾四本八分

尺ノ壹本四圓五拾錢ノ割

一千貳百六拾七圓貳拾錢

但尺ノ貳百拾壹本貳分

尺ノ壹本六圓ノ割

一拾七圓六拾錢

縱橫基找并木釘
三十五百貳拾本

槽長貳間幅四寸
厚六寸 八百八拾本

右三口

但壹本ニ付五厘宛

合貳千百拾六圓四拾錢

縱橫基找及錢線据附方英一里大工其他手傳人
足等ノ賃錢

一百七拾六圓

但壹間立方ニ付間鑿及、運搬ノ費八拾錢宛

一百六拾五圓

但壹間平方ニ付拾五錢宛

一三百貳拾六圓八拾五錢

深壹尺貳寸幅七尺五寸長
英一里ノ間鑿土量貳百貳拾坪

大石橋木及木根等取除下
地均口一ルニテ堅ノ方平均積

千百坪ノ費用

縱橫基找及、錢線据
附方ニ付角取穴穿

切組ニ坐錢打付方等
長三間半ニ大工壹人

手傳壹人ヲ要ス長廿
英志里ニ付五百貳人

八分四厘及、手傳日
數ノ千間積

大正九年
九月

大工賃人二付一日四拾五錢宛
但手傳賃人二付一日四拾錢宛

右三口

合六百六拾七圓八拾五錢

敷石並砂利其他目潰土突々堅ノ方等美志里ノ費用

一三千百六拾八圓

長幅四五寸以上厚十六寸以上ノ角石三千五百貳拾間費

但壹間ニ付据附手間及ニ運送凡

一三拾五圓九拾三錢四厘

基材間ニ小石目潰ノ土埋ノ及ニ突々堅ノ方平均幅三尺五寸深十平均七寸長美一里合ノ立方積五拾九坪ハ

但壹間立方ニ付手間賃五拾錢宛

一貳百六拾四圓

但平均幅四尺五寸深十平均四寸長美一里砂利四拾四坪一坪ニ付六圓宛

一百九拾八圓

但砂利數平均ラ口ルニ方堅ノ方幅平均四尺五寸長美一里ノ積平方六百六拾坪

右四口

合三千六百六拾五圓九拾三錢四厘

右三廬

合六千四百五拾圓拾八錢四厘

一百五拾圓

雨水滯留ノ場等ニ埋溝設置ノ費用

一百五拾圓

工業場失來仕付並ニ諸品扱料

一百貳拾圓

諸運送賃一切

右三口

合四百貳拾圓

總計壹万五千四百九拾七圓六拾八錢七厘五毛

右ハ美志里ノ築造惣入費

大工頭

諸物料屋舎建築其他惣入費

一 三万四

馬車三拾輛

但壹貳輛ハ英或ハ米國ヨリ買収シ其餘ハ我邦

ニテ模造ノ見込ニテ壹輛平均千四ノ割

一 九千九百四

馬百八拾疋代

但壹疋ニ付五拾五圓

一 四千五百四

馬具百八拾疋分

但壹疋系ニ付貳拾五圓宛

一 壹万〇八百四

厩用建築凡貳百七拾坪

但諸雜作共壹坪四拾圓ノ割

一 千八百四

秣小屋建築凡百五拾坪

但諸雜作共壹坪拾貳圓割

一 六千四

停車場凡百五拾坪

但諸雜作共壹坪四拾圓ノ割

一 千三百五拾四

事務局建築凡四拾五坪

但諸雜作共壹坪三拾圓ノ割

一 九千四

地所買上代

但地所千五百坪壹坪ニ付六圓ノ割

一 三百四

建築地所均ラレ方等

一間平方貳拾錢ノ割

一 三百六拾四

厩附屬諸雜品馬壹疋

一 三拾四

停車場附屬諸雜品壹

輛ニ付壹圓ノ積

一 貳百四

事務局附屬諸雜品

一 壹万四

測量製圖及工事監督

等費

一 四百圓

井戸新規掘井ニ要水

一 百貳拾四圓

流ニ溝築造等ノ費用

所々石橋ハ錢線据付

方ニ付敷石ハ乳穿ナ

方等凡六拾貳間ノ毫

間ニ付貳圓ノ積

一 六拾貳圓

右石工ノ手傳人半介

賃錢

一 貳千五百圓

所々小橋新架設費用

ニ見込ム

右拾七口

合八万七千三百貳拾六圓

外ニ

拾八万五千九百七拾貳圓貳拾五錢英一里、建築入費ニ拾貳倍

此合計貳拾七万三千貳百九拾八圓貳拾五錢

外ニ

貳万四千五百九拾六圓八拾四錢貳厘五毛

但全費用金百分ノ九ヲ遺

漏ノ事件ノ豫備トス

總計貳拾九万七千八百九拾五圓〇九錢貳厘五毛

今此馬ヲ線路拾貳英里ニ割ルトキハ一英里ニ

付貳万四千八百貳拾四圓五拾九錢壹厘ニ當

ル

工部省回答 會計部宛

内務省上申東京府市街轍路馬車設置ノ件ニ付云々

御照會ノ趣致了承候右ハ當省ニ於テ何等ノ意見無

之候仍之御送附ノ書類繪圖送進此段及御回答候也
十三年九月十日

會計部議按

内務部ノ按ハ別ニ命令書ヲ典フルニ及ハス他ノ車
馬營業者ト同視シテ許可セントシ法制部ハ道幅七
間以上ニシテ人道車道ヲ分界シタル所ニ限り開局
クヘシト云フ命令書ヲ要セサルノ按ハ暫ク措キ道
幅七間以上ニシテ人道車道ヲ分界シタル所ニ限り
許スヘシトノ按ニ依レハ新橋ヨリ上野ニ到ル大通
リ中ニモ人道車道ノ分界ナキ部多シ況ヤ上野ヨ
リ浅草ニ到ル間七間ニ滿タサルノ場所ニ於テオヤ
到底願意ヲ聞届ケスト云フニ同シ故ニ其中間ヲ採
リ線路ヲ限り且命令書ヲ増補シテ許可セント欲ス

左ニ増補ノケ條ヲ記シテ御協議ニ及フ

第一

今般許可スル所ノ轍路ハ新橋際ヨリ日本橋ヲ經
テ上野廣小路夫ヨリ廣徳寺前通りヲ經テ浅草廣
小路夫ヨリ庫前傳馬町本町通りヲ經同町武丁目
ノ角ニ於テ日本橋通りノ線ニ連絡スルモノトシ
明ニ線路ノ制限ヲ示スヘシ

第二

内務修正按第四條ニ依レハ橋梁上ノミ單線トス
ト雖モ道路狹隘一何間以下ニモ亦單線トスヘシ

第三

同上第五條ニ依リテ橋梁ノ幅員狹隘ナルカ若ク
ハ脆弱ナルカノ内之ヲ廣ク入ハ更ニ架設スルノ

九
正
类
典

内務部ノ按ハ別ニ命令書ヲ與フルニ及ハス他ノ車馬營業者ト同視シテ許可セントシ法制部ハ道幅七間以上ニシテ人道車道ヲ分界シタル所ニ限り開闢クヘシト云フ命令書ヲ要セサルノ按ハ暫ク措キ道幅七間以上ニシテ人道車道ヲ分界シタル所ニ限り許スヘシトノ按ニ依レハ新橋ヨリ上野ニ到ル大通リ中ニセ人道車道ノ分界ナキ部分多シ況ヤ上野ヨリ浅草ニ到ル間七間ニ滿クサルノ場所ニ於テオヤ到底願意ヲ聞届ケスト云フニ同シ故ニ其中間ヲ採リ線路ヲ限り且命令書ヲ増補シテ許可セント欲ス

第一

茅貳
十三年九月

第三

同 上 茅 五 條 ニ 依 レ ハ 橋 梁 ノ 幅 貢 狹 隘 ナル カ 若クハ 脆 弱 ナル カ ノ 由 之 ヲ 廣 メ 又 ハ 更 ニ 架 設 スル ノ

費用ヲ負擔スルノミヲ示シ其果シテ狹隘ナル
ト否トヲ鑒定スルハ誰ニ在ルヤヲ示サス宜ク府
廳ノ鑒定ニ係ルヘキ旨ヲ増補スヘシ

第四

法制部付箋ノ如ク第拾貳條ノ邊ニ外國人ヲ以テ
株主ト為スヘキラストノ二條ヲ加フヘシ

第五

第拾四條ノ邊ニ轍路營業者ハ轍路用ノ車ニ付一
般ノ車税ヲ拂フノ外追テ官廳ヨリ命令ノキハ相
當ノ税ヲ納ムヘキ旨ノ一條ヲ加フヘシ

第六

原按第拾四條ノ旨モ存シ置クヘシ

第七

内務修正按第拾六條ノ邊ニ行幸行啓其他外國ノ
貴賓等通行ノ節ハ其行路ノ通車ヲ一時停止セシ
ムルヲアルヘシ但シ是レカタノ別ニ補償ヲ給セ
スノ一條ヲ加フヘシ

第八

第拾五條ハ内務ノ按ノ如ク割引ヲ以テ買フニ
修ムスルハ不可ナリト雖モ全ク刪ルハ尚ホ不可
ナリ宜シク改メテ満期後ハ更ニ營業ヲ許否スル
カ又ハ取拂ヒ原形ニ復セシムヘシトノ意ニ修正
スヘシ

第九

駐車場ハ府廳(及警視局)ノ許可ヲ受ケ豫定シタ
ル場所ニ限ルヘシノ一條ヲ加フヘシ

第拾

發着時間、賃錢、車ニ乗入ヘキ人数、其他凡ソ通車ニ関スル諸規則ハ總テ府廳及ヒ警視廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ定メ若クハ改正スヘシ

第拾壹

此命令書ニ掲クル條件ノ外法律ヲ以テ定メタル諸件及ヒ将来迄ハヘキ諸件ハ總テ其法律ニ遵フヘシ右ノ二條ヲ加フヘシ

第拾貳

此命令書中ニ掲クル條件ニ違背シタルハ何レノ時期ヲ問ハス第拾壹條(内務修正ノ)ノ例ニ依リ處分スヘシ

第拾三

取締方命令書ニ條記スル所ハ之ニ違背シタルハノ處分法即チ罰金シヨシヲ欠クヲ以テ後法ニ属ス取締規則ハ命令書ヲ以テスヘキモノニアラズ宜シク違警罪ノ條目トナシテ布達セシムヘシ發着時間、賃錢、一車ニ乗込ヘキ人数其他凡ソ通車ニ関スル諸規則ヲ定メ若クハ之ヲ改正セントスルハ管廳ニ届出ツヘシ

一 錢路馬車ノ運轉ハ一時間ハ拾町ノ速度ヲ過ク可ラス

一 差配人車長馭者ノ所為ヨリ他ニ損害ヲ負ハシタルハ營業人賠償ノ責ニ任スヘシ

一 馬車ハ道路ノ交叉スル處及ヒ隅角ニ靜息スヘカラス

- 一 醉人并發狂人ハ乗車セシムヘカラス
- 一 馬車ハ常ニ適宜ノ駐車點ヲ備ヘ其運轉ヲ駐ムルニ便ナラシムヘシ
- 一 行車中往來繁多ノ場所ニ於テハ常ニ小笛ヲ用ヒ衝突ノ禍害ヲ豫防スヘシ
- 一 行車中路上老幼ハ勿論通行人ノ為メ危難アル場合ニ於テハ速ニ駐車シテ之ヲ避ケシムヘシ
- 一 路線ノ屈曲及ヒ橋上ヲ行車スル片ハ特ニ馬足ヲ緩スヘシ
- 一 二車前後相次テ行進スル片後車ハ必ズ前車ヨリ適宜ノ間隔ヲナスヘシ
- 一 車中ノ乗客俄ニ發病シ又ハ其他ノ要事アル時ハ速ニ駐車シテ近傍ノ巡查ニ報告スヘシ

- 一 車長及馭者ハ帽子又ハ衣服等見分ケ易キ標章ヲ着スヘシ
- 一 車ノ外面見ヘ易キ處ニ該車ノ番號及其車何處ヨリ何處ニ至ルト木札ヘ明記スヘシ
- 一 火藥其他暴發スヘキ物品ハ仮令ヒ乗客ノ手荷物タリ共運搬スヘカラス
- 一 日没ヨリ日出迄ハ必ズ車ニ燈ヲ点スヘシ又車アリテ街上ニ駐車スル片ハ該車ノ後部ヘ赤色ノ燈ヲ点スヘシ
- 一 強テ往來人ニ乗車ヲ勸ム可ラス

法制部議按

別紙内務省上申東京府市街輻路馬車設置ノ件ヲ審按スルニ聽許スヘカラサル義ト存候其理由ヲ陳ス

ル左ノ如シ

府下街衢ノ制新京ニ橋間ヲ除ク、外縱横廣狹一之
ノ程限ナシ故ニ丙線内ハ勿論甲線内ト雖モ上野山
下通りヨリ廣徳寺前及淺草田原町ノ如キ陝路曲折
尋常ノ馬車尚ホ駢驅スルヲ得ス然ルニ轍路馬車貳
拾人ヲ容ル、ノ大ナル強テ此猛巷ヲ往復セハ他ノ
往来ヲ妨遮スルコト實ニ勢カラサラン

又乙線内淺草橋以北ノ如キハ肩摩轂擊往来織々如
ク人力車モ猶ホ疾走スルヲ得ス右等ノ地ハ現行車
馬通行ノ為メ往々危艱アルヲ免カレス然ルニ今亦
轍路馬車ノ往復ヲ知フルトキハ其雜沓困難前日ニ
倍シ危險益甚シカラシ

又方今貧民人力車ヲ賴テ纔ニ其口ヲ糊スル者其幾

千萬人ヲ知ラス然ルニ轍路馬車ヲ舉行スルハ右

貧民多クハ其業ヲ失ヒ困窮益甚シキニ至ラン

又鐵路ヲ造築スルハ之レニ駕スルノ馬車ハ獨リ

其便ヲ得ルモ其軌轍ヲ同フスルヲ得サル者丙輪其

線ヲ夾テ馳スルハ馬蹄其線ニ觸レテ顛覆ノ畏レ

アリ若シ其線ヲ避ケントスルトキハ車路益隘端ノ

害アリ從來馬車營業ノ者忽チ其業ヲ失フニ至ラン

又明治七年中林和一ヨリ右同一ノ營業ヲ願出タレ

共之ヲ許可セラレサリナリ今日府下ノ景況當時

ト大異アルコトナシ就テハ道幅七間以上ノ所ノミ

鐵路布設即許可相成方可然ニ付御指令按取調仰高

裁候也 十三年十月十二日

御指令按

伺、趣道幅七間以上ニ限リ開届ヘキ事

参照

明治八年五月

内務課長

本課長

別紙内務省伺馬車轍路取開ノ件右ハ目今容易御指許不相成方可然歟仍テ左ノ通御指令按取調仰馬裁候也

御指令按

伺、趣難開届候事

馬車轍路取開ノ義ニ付伺

府下馬車轍路興業ノ儀銀坐四町目林和一出願ノ趣ヲ以テ東京府ヨリ申立候ニ付其旨先般相伺候

馬車轍路規則ノ義 御開届相成轍路設置ノ道筋詳細取調圖面相副猶可相同旨御達相成候付其旨同府ヘ相達規則ニ照シ為取調候處入費莫大相嵩同人儀ハ微力ニシテ成功無覺未御免相願代リ神奈川縣下横濱港入船町高島嘉右衛門更ニ引受最前ノ規則ニ基方法取調本縣添翰ヲ以テ相願候旨申ノ通同府申立候ニ付取調候處最前ノ規則中尚條件ヲ増加シ別紙圖面ノ通新橋ヨリ上野淺草兩所迄ノ間轍路設置ノ積ニ有之候處同府於テハ京橋以南ノ外ハ道幅狭少ニテ他ノ障碍如何ト之見込ニ付尚詳細及尋問候處乙之通云々ヲ奉テ追テ道幅取廣候迄見合相成度旨會議所見之書相添申立候得共人家稠密ノ市街道路改正ノ舉ハ於

政府數百萬金ノ鉅額ヲ費スニ非サレハ幾年ヲ經ル共其期有之間敷既ニ千里軒大馬車ノ如キ其他是ニ類スル馬車ト雖モ通行被差許候上ハ唯此儀ノ紛紜スル所以馬車通行ノ可否ニ非スレテ轍軌ヲ設クルト不設トニ有ルノミ畢竟轍軌アレハ順行之轍軌ナケレハ漫行ス然ラハ則轍軌ヲ設クルハ却テ危險之豫備ニ可有之尤道幅八間以上ノ乃ノミ往復轍軌ヲ設ケ其他狭小ノ處ハ單轍軌相設候ハ、他ノ差支有之間敷殊ニ轍軌上石馬車往復間ハ他ノ車馬縱橫通行ヲ得候儀ニ付前件同府申立モ有之候ハ共右ハ一服ノ洪益相成候儀ニテ營業ノ儀ハ廿五ヶ年間別紙方法之通債錢取立貢稅并在來道路修繕上水伏替等ノ節入費出金等規則

十三年十月廿一日

約定ノ通ニテ不都合モ無之ニ付願之趣ハ前書ノ通築造候積ヲ以許可可致ト存候因テ書類 圖面并指令按相添此段相同申候也 七年十月十二日

内務部議按 法制會計兩部歴査

別紙内務省同東京府下市街馬車錢路設置ノ儀審按候處右ハ本邦ニ在テハ創始ノ工事ニシテ或ハ多少ノ異議ナキヲ免レスト雖モ近年盛ニ歐米諸國ニ行ハレ尤モ公衆ノ便トスル所ナリ則物貨輻湊未往繁多ノ地東京府下ノ如キニ在テハ其益少カラサルハ固ヨリ言テ羨タス依テハ上申ノ通り速ニ裁可相成可然相考候但々東京府上申書中事業命令書ハ會計部ノ發議ニ依リ附箋ノ通り二三ノ修補ヲ加ヘ其他ハ概予不都合ノ慮モ無之又營業取締命令書ハ特ニ談

營業人ニ限リ命令ヲ以テ付スヘキモノニ無之ニ付
別紙甲第ノ箇條ヲ以テ一般馬車取締規則中ニ編入
シ主管廳ヨリ布達候方至當ト存候依テ左按ノ通却
指令相成可然哉仰高裁候也
十三年十月廿一日

十三年五月廿九日

山形宮城兩縣下新道開鑿

内務省伺

一金八万九千八百五拾四円七拾七錢六厘

内 金五万貳千六百五拾三円廿貳錢六厘 山形縣ノ分

金三万七千貳百五拾九錢 宮城縣ノ分

右ハ山形縣下羽前國北村山郡関山村ヨリ宮城縣下
陸前國宮城郡作並村ヘ達ス新道開鑿ノ儀ニ付別紙
ノ通兩縣ヨリ申出候処元來陸羽地方ノ儀ハ地勢大
抵山嶽周圍四境接近シ行旅ノ往來物貨運搬ニ相艱
ミ物産興隆ノ障害不尠ハ相違モ無之道路開鑿ハ緊
要ノ事業ニ候ヘ凡官費給與ノ儀ハ順序モ有之容易
難聞届候付即今詮議難及旨先般及指令置候義ニ有